

【七ヶ浜町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和元（2019）年度に1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するGIGAスクール構想が開始され、教育におけるICTの活用の動きが本格化した。

この動きは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い一層加速し、小中学校において、1人1台端末の環境実現により、ICTを活用して全ての児童生徒たちの学びを保障できる環境整備が図られた。

また、令和3（2021）年1月に公表された中央教育審議会の答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」を始めとする政府の議論等の中で、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」という新たな時代における学びの在り方が示され、これらの一体的な充実を図ることで、学習指導要領で求める「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげていくことが求められているところである。

中学校においては、このような教育環境・方針等を踏まえ、各教科の特質に応じ、地域・学校や生徒の実情を踏まえた上で、ICTを活用した新たな教材や学習活動を積極的に取り入れ、生徒の資質・能力の育成を目指していく。

2. GIGA第1期の総括

本町では、GIGAスクール構想の下、令和2年度に小中学校の児童生徒1人1台端末の整備を完了した。

また、端末等ICTの活用の基盤となるインフラ整備に当たっては、1人1台端末の利用等を想定し、令和3年度における情報ネットワーク等の整備を行った。町内小中学校においては、児童生徒が授業等の様々な場面でICTの活用した学習活動が実施できるようになった。その一方で、校務や授業におけるICT活用の頻度等については、教職員間で差がついていることが課題である。教職員自身のICT活用能力を向上させ、活用場を増やすため各学校において、教職員誰もが積極的に活用したくなる体制づくりや、授業面では、教科の特徴を踏まえながら授業でのICT活用場面や活用方法を具体的にイメージできるよう、月1回の利活用発表を行い教職員同士が意見交換できる場の設定等の支援を行ってきた。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想第2期で更新する1人1台端末について、その効果的な利用促進に向け、次の3つの視点から取り組んでいく。

（1）1人1台端末を積極的に活用するために

文部科学省のICTに係る実態調査等の結果では、教職員のICT活用指導力が全国平均を下回っている。1人1台端末の利活用の更なる推進のためには、全国の先進的な取組を行っている学校の情報を共有するとともに、町内の学校の好事例の積極的発信、互見授業や模擬授業の実施等を通じて、授業における教職員のICT活用指導力を着実に向上できるよう、支援していく。

（2）個別最適・協働的な学びの充実を図るために

授業における個別最適・協働的な学びの一層の充実に向けては、教職員が単元計画に、生徒自身が理解度や進度に合わせながら情報収集、実験、実習、個人やグループでの考察、発表等に取り組む場面を、意図的・効果的に設定した授業づくりが望まれる。そのためには、教職員が不断の授業改善の中で、各教科で育成すべき資質・能力に加え、1人1台端末を効果的に活用するという視点も持ち合わせなければならないが、町としては、教職員がICT活用のメリットや方法について実感を伴った理解を深められるよう、日常の校務でのICTの利活用の促進を積極的に取り組んでいく。

（３）全ての児童生徒の学びを保障するために

中学校においては、現状においても 1 人 1 台端末を活用して、災害時等における学びの保障や、学校へ登校することが困難な不登校の生徒等への支援を実施しているところであるが、生徒の学習ニーズの多様化は進み、学びの保障は全ての学校において適切に対応しなければならない。

一方で、学校現場には少子化による生徒数減少や学校の小規模化といった課題も生じつつある。

その中で、今後、生徒の学びをより一層充実させるためには、ＩＣＴを利用した遠隔授業などの活用が考えられるが、本町では、不登校児童生徒の学校教育支援センターでの Google アカウントやドリルアプリ等を活用し遠隔での学習の支援などに取り組もうとしていることから、この取組等を通じて得られた知見等を基に、各学校が教職員や生徒の実情に応じていつでも必要な手立てが講じられるよう支援していく。

これら取組を推進していくために、本町としては、児童生徒向けの 1 人 1 台端末環境を継続して維持してまいりたい。